

The 2nd Asia Pacific Next Generation Camp 参加報告書

牧 兼充

1. 開催概要

2002年8月28日、29日に、上海のRadisson SAS Lansheng Hotelにて、第2回campが開催された。日本からは、史氏(早稲田大学)、柴田氏(慶應義塾大学)、遠藤氏(JPRS)、牧(慶應義塾大学)の4人が参加した。そのうち、牧はcommitteeとしての活動も行った。またAdvisorとして、村井氏(慶應義塾大学)、松本氏(AT&T)、後藤氏(早稲田大学)、高橋氏(RIIS)、会津氏(アジアネットワーク研究所)が参加した。参加者総数は51人。その中での上位参加国は、韓国18人、中国17人、日本9人という順序であり、韓国からの参加者が目立った。また参加者の半数が女性を占めていたこともこのcampの大きな特徴であった。内容としては、村井氏らによるキーノートスピーチ、パネルディスカッション、ブレイクアップセッションなどにより構成されていた。ブレイクアップセッションとして、“Young feminist network in AP”、“Internet Policy in AP”、“Asia Youth Culture”など、インターネットとは直接関係のないテーマが設けられていたのも大きな特徴であった。

2. 3rd Camp の予定

第3回campは、2003年2月の台北にて開催されるAPRICOT2003に合わせて開催する予定である。CommitteeのchairとしてAnthony S. Lee氏(TWNIC)、vice chairとしてSunyoung Yang氏(Center for Youth & Cultural Studies of Yonsei Univ.)、牧(慶應義塾大学)が選出された。詳細な日程、内容については今後検討していく予定である。また日本から参加した他の3名に対して、プログラム検討などの面で、committeeへの参加要請がなされた。

3. 課題

今回の参加により、いくつかの課題があることが明らかになった。

- 今回の参加者は、APNGが想定しているようなインターネット分野以外に関わっている若者が多く参加していた。インターネットの発展のためには他の分野の専門家が参加することにより、インタラクティブな議論を行うことは重要ではあるが、参加者の中心はインターネットに関わっている者、次世代のアジアパシフィックのインターネットを担う意思を持つ者という基準を強化していく必要がある。
- 参加者の基本的な知識の欠如が見られた。“Internet Policy in AP”というセッションに参加したが、例えばIPに関する基礎的な知識を持たない参加者との議論を行うことは大きな課題であった。参加者の基礎知識の共有と育成は大きな課題である。
- committeeの地理的な偏りが見られた。今回は特に韓国のメンバーがcommitteeの半分を占められていた。Committeeに参加すること自体が次世代の国際協調のための人材の育成に有効であると考えられるので、各国から均等にメンバーを送り込む必要がある。

4. 今後のJPNICのCampへのコミットメントについて

今後のJPNICとしてコミットしていくための重要な点は以下の通りである。

- Asia Pacificのインターネットを担う人生を育成するためのcampは大きなポテンシャルを持っている。日本における次世代を育成するためにも引き続き、この動きを注視しコミットしていくことは重要である。
- 次世代を育成するためには、現在のcampのコンテンツは適切とはいえない。日本からも積極的に委員を送り込み、campのあり方について議論していく必要がある。
- 日本における次世代の育成も急務である。APNG Campに今後参加すべき国内の人材の発掘とコミュニティ作りが重要である。